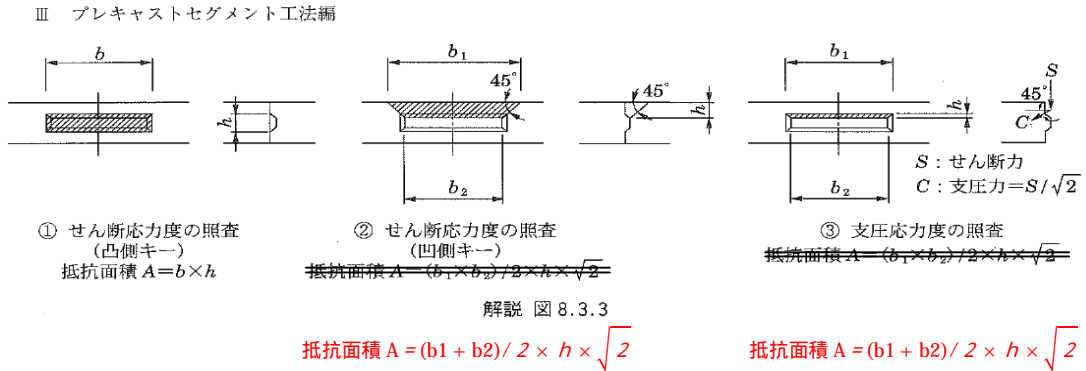


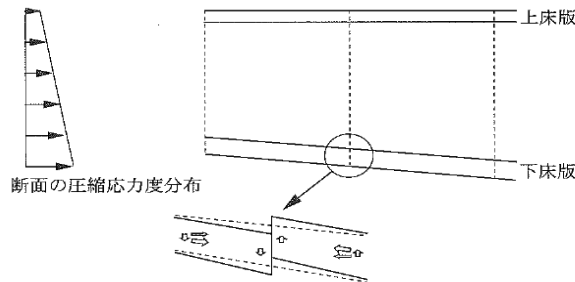
外ケーブル構造・プレキャストセグメント工法設計施工規準

pp158 の解説図 8.3.3 に誤りがありましたので訂正いたします。



(3)について 桁高が変化し、かつ接合面が鉛直の場合には、橋軸方向圧縮力の鉛直成分によって下床版接合面に局所的なせん断応力が生じる。セグメント架設時には接合面に塗布した接着剤が未硬化の状態であり、このせん断力に対して下床版のスラブキーを設置し、ずれや損傷が生じないようにしなければならない。

解説 図 8.3.4 に、桁高が変化する場合の継目部の下床版部作用力を示す。



解説 図 8.3.4 桁高が変化する場合の継目部の下床版作用力

下床版の接合キーに作用するせん断力は式(解 8.3.5)によって算出することができる。

$$N_h = \{(\sigma_{c1} + \sigma_{c2}) / 2\} \cdot t \cdot B \quad (解 8.3.5)$$

$$N_v = N_h \cdot \tan \theta \quad (解説 図 8.3.5 参照)$$

ここに、 σ_{c1} : 下床版下縁のコンクリート応力度

σ_{c2} : 下床版上縁のコンクリート応力度

t : 下床版厚

B : 下床版幅

N_h : 下床版に作用する橋軸方向の力

θ : 桁高変化の勾配

N_v : 下床版のスラブキーに作用するせん断力